



新浦安フォーラム設計
惣道 和昭氏

「なんの 建物ですか？」 Ageing in Place vol.3

住み慣れた地域で自分らしく。

街の ランドマークに

新浦安フォーラムが竣工してしばらく、「こちら
は、なんの建物ですか？」
と聞かれることがよく
あったそうです。

一見高齢者施設に見え
ない外観は、近隣の住宅地
になじむたずまいであ
りながら、周辺の環境を高
めるものとなることを目
指しました。

3層の建物は、高さを15
mに抑え、同じ高さのケヤ
キを敷地周囲に植えて、緑
の潤いを提供しています。
竣工から13年が過ぎ、街
のランドマークのひとつ
として数えられる建物と
なっています。

ご入居者の視点を 中心に建築を構成

当時の高齢者施設は、介
護の側からの視点が優先
され、そこに生活する本来
の主人公である高齢者が
意識の外に置かれがちで
した。新浦安フォーラムの
設計にあたっては、生活者
としてのご入居者を中心
に建築を構成することを
心がけました。まず、ご入
居者の行動を阻害しない
こと、良好に誘導すること、

そして、ご入居者をサポー
トする介護者の行動のス
ムーズネスを同時に満足
させることを基本にすべ
し計画を進めました。

認識しやすい 空間規模

高齢者、特に認知症の方
にとつて、施設の中は、長
年生活してきた住まいに
近い大きさである必要が
あります。空間認識や空間
予測のしやすさにつなが
るためです。

床面積6千㎡を超える
建物でそれを表現したの
は、空間を細かく分節する
ユニットケアの採用でし
た。6〜14室の居室からな
る7つのユニットに分か
れ、どこか懐かしい雰囲気
のユニットリビングが、そ
れぞれの居室につながっ
ています。

環境もケアの 要素のひとつ

ご入居者を自然に良好
に誘導するため、やさしい
色合いでありながら、認識
しやすい色彩計画も取り
入れました。珪藻土の壁
無垢材の床、ヒノキの浴槽
など、できるだけ自然素
材を採用、色彩の柔らかさ、
匂い、肌触りなどが、ご入
居者の感覚を刺激するこ
とを目指しています。

ご入居者を中心に据え
た建築・設計は、結果的に
ケアの要素のひとつとな
り、新浦安フォーラムとい
う名の安らぎの「家」をか
たちづくっています。



介護付有料老人ホーム 舞浜倶楽部
新浦安フォーラム
◆お問い合わせ・ご入居相談
047-304-2400
浦安市高洲1-2-1

<https://www.maihamaclub.co.jp>